

1

感謝と喜びを

感謝と喜びを 今主の前に 今主の前に
賛美を心から 今主の前に捧げよう

※イエスが流された血潮できよめられ
天に私の名が記されている喜び

ただひとつの願い

ただひとつ私の願い求めは
主の家に住まうこと 命のかぎり

※麗しき主を仰ぎみて
主の宮に住み主を思う×2

待ち望む主を

待ち望む主を 待ち望む主を
待ち望む主を 主を待ち望む

待ち望め主の栄光 待ち望め主の御国
待ち望め主の御声 へりくだり御前に立つ

見つめつけます

見つめつけます あなたを今日も
けして離れない イエス様 あなたを

わたしの日々の力となって
力となってください
わたしの今日 力となって
力となってください

Be the strength of my life ×3 today!

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り ビリビ4の4～7
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り 詩篇51
3. 個人的な願いの祈り ヨハネ15の7
4. とりなしの祈り 1テモテ2の1～4/エペソ4

- ①大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ②瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ③クリスチャンが成長し、整えられ、用いられますように
＝教会員が恵まれて、礼拝・祈禱会・奉仕・献金・伝道ができますように
- ④求道者が与えられ、救われますように→受洗者
- ⑤教会近隣の方が集われますように
- ⑥若い献身者が与えられますように
- ⑦ジョイキッズとユースの働きが充実しますように
- ⑧高齢の方々のフォローが十分になされますように
- ⑨Seto Life Art Studio が用いられますように
＝ウクレレ・キッズ英語・ゴスペル・モンテッソーリ教室・音楽ミサなど
- ⑩50人→100人→200人と教会が成長しますように

5. 日本と世界とエルサレムの平和を願って...

- ウクライナとロシアの戦争が終わるように。
- 日本の今後・未来のため。教育・経済・国際情勢。

信仰宣言

「私の家族は全員救われます」
「日本にはリバイバルが始まっています」
「私も用いられます」
「すべての問題は解決します」
「することなすこと、みな成功します」
「私のまわりには奇跡が起こります」
「すべてのことを感謝します」
「イエス様がご一緒ですから」
「ハレルヤ主よ感謝します」

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂 5-64 0561-48-8899

牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



大和カルバリーチャペルの教会員
日本画家 久住友理さんの作品より

祈りの小径(こみち)

Number: 175 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

2

今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

詩篇27篇1～8・13～14

ダビデの歌

1 主はわたしの光、わたしの救だ、わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。

2 わたしのあだ、わたしの敵である悪を行う者どもが、襲ってきて、わたしをそしり、わたしを攻めるとき、彼らはつまずき倒れるであろう。

3 たとい軍勢が陣営を張って、わたしを攻めても、わたしの心は恐れない。

たといいさか起って、わたしを攻めても、なおわたしはみずから頼むところがある。

4 わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める。わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主のうるわしきを見、その宮で尋ねきわめることを。

5 それは主が悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠し、

岩の上にわたしを高く置かれるからである。

6 今わたしのこうべはわたしをめぐる敵の上に高くあげられる。それゆえ、わたしは主の幕屋で喜びの声をあげて、いけにえをささげ、歌って、主をほめたたえるであろう。

7 主よ、わたしが声をあげて呼ばわるとき、聞いて、わたしをあわれみ、わたしに答えてください。

8 あなたは仰せられました、「わが顔をたずね求めよ」と。あなたにむかって、わたしの心は言います、「主よ、わたしはみ顔をたずね求めます」と。

13 わたしは信じます、生ける者の地でわたしは主の恵みを見ることを。

14 主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め。

3

黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

4

みことばの解説

献堂17周年を迎えた瀬戸カルバリーチャペル。これからは教会を愛し、主にお仕えてゆきましょう。そのために、ひとり一人が、「霊的なアップグレード」を求められています！

旧約聖書を通じて、「神の住まい」はアップグレードしてきたことを学んできました。

モーセの幕屋→ダビデの幕屋→ソロモンの神殿

(9/14 祈禱会メッセージ)

ダビデの幕屋において特徴的だったのは…

① 賛美の供え物が中心だったこと

② 主を求め近づく者、誰でも「契約の箱」(主のご臨在)を見ることができた。

そして

アモス書9章、使徒行伝15章が引用されて、神様は終わりの時に、「ダビデの幕屋」を建て直される。つまり、教会は、モーセの幕屋やソロモンの神殿よりも、ダビデの幕屋に似たものとなると預言されています。

ダビデは「主の住まい(主の家)」にこだわりました。詩篇27篇で彼は「One thing」ひとつのことを願ったとあります。羊飼いとての少年時代から、サウル王に仕えた青年期、彼は戦いと逃亡の人生でした。いのちの危険が隣り合わせという、常に「恐れ」と対峙した人生でした。そんな中で、彼は「主が光であり、救いであり、命のとりで(砦・要塞)=Strength of my life」であり、主ご自身が「隠れ家」シェルターであることを体験し続けたのです。

ですから、彼はためらわず、いえ、滲み出る本心から、「私はひとつのことを願い求める」それは、生ける限り「主の家に住むこと」、そこで主の麗しき(美しさ)を見ること、そしてその宮(神殿=神の住まい)で、思いに耽る(meditation/黙想)することだと告白しました。

「ダビデの幕屋」は、彼の「悩みの日」に生まれ、敵と追手から身を隠した「潜伏生活」の中での、最も信頼できる「心の拠り所」だったのです。

